

くらし

フィルムコミッション

映画の現場から

錦織監督



●●●9

フィルムコミッション(F.C.)をご存じだろうか。F.C.は一言でいえば映画、ドラマ、CMなどあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致し、ロケをスムーズに進めるために協力してくれる非営利公的機関、ということになる。

以前、私が舞鶴F.C立ち上げ式典にゲストで呼んでいただいた際に知り合った神戸フィルムオフィス代表の田中まこさんを、しませ映画祭の講師として招いたことがある。A.F.C.I(国際フィルムコミッションアソシエーション)の日本第1号の正式会員に認定された神戸フィルムオフィスの活動を聞き、設立理念の素晴らしさや興味深い話ばかりで感動したのを覚えている。

舞鶴F.Cの式典には、市関係者はもちろんのこと、海上自衛隊や海上保安庁などの隊長や消防、警察署長などの

映画撮影を誘致し協力

姿もあった。それは、F.C.にとって、道路・公園などの公共施設や民間施設などの撮影使用許可手続きの簡便化も仕事のひとつだから。消防や警察などの機関の協力を迅速に得られるというのもF.C.の特徴の一つ。F.C.と名乗る限り、協力依頼のあった全ての作品を支援しなければならぬ、というのは一般的に知られていないのかもしれない。撮影の内容や規模によって優遇したり拒否したりすることもできないのだ。

神戸フィルムオフィスが協力した映画の中でも金城武、鈴木杏が主演した「リターナー」では一般道での車の爆破シーン(消防車出動)や、夜間の港でのヘリコプターが飛行しながらの銃撃シーンなど、条例変更や公共機関の協力なくしては撮影できないシーンの撮影にも成功している。設定は横浜なので電柱の住所表記も全て神戸ではなく横浜。エンドロールの協力字幕以外どこにも神戸は出てこない。まさに良い映画を作るための協力機関、というわけだ。

また、窪塚洋介、柴咲コウ主演の映画「GO」では地下鉄線路内での撮影も行っている。映画撮影のために条例などの変更もしたと聞き、F.Cと名乗るのも簡単ではないことを痛感した。田中まこさんが「白い船」を見てくれた後に全編神戸が舞台の映画ができたらしい、と話してくれたのが印象的だった。

近年、全国にF.C.が生まれている。われわれのような映画製作者にとってありがたい限りだ。映画製作のために活動している全国のF.C.にエールを送りたい。

(錦織良成・映画監督)

— 第2、4金曜掲載 —

お祭りの再現(映画「うん、何?」撮影現場から)

